

# 特集

## 地域に育まれる子どもと学校

### —佐渡市の小中学校統廃合の調査報告—

伝統芸能を学ぶ

佐渡の子どもと学校統廃合

なぜ、この問題に取り組んだか

一島一市に大合併した佐渡市は、厳しい財政難を理由に、合併前に島民に約束していた施策を見直して、支所の廃止、小中学校の統廃合、保育所等の民間移行など「行政改革」をすすめています。

研究所は、2005年以来、にいがた自治体研究所と協同して、このことから生じる、島民の暮らし・地域経済への影響を、産業面、教育面から具体的な問題を調査・研究し、佐渡島の地域再生の鍵を握る“宝もの”を探す努力を重ねてきました。

研究所は学校教育の分野を主とし、合併（2004年）による「行政改革」によって小中学校の統廃合が、地域と学校との関係、子どもの育ちにどう影響するかを中心に調査研究をすすめてきました。

た。

特に注目したのは、佐渡の各地域に残る伝統芸能を地域の子どもに継承するという活動に多くの学校が協力し、地域の伝統芸能の学びが、他の学びでは得難い、子どもの人間的な成長・発達に深く関わる教育的営みを実践していることです。

全国一斉学力テストにみられるように、学校や子どもをいつそう知識中心の点数獲得競争に駆り立てる風潮の下で、改めて地域住民の生活・文化的活動に子どもを育てている教育的価値を見いだすことができました。

そして、東日本大震災以降とりわけ地域と人の絆が注視されているなか、佐渡島では伝統芸能が学校と家庭と地域をつなぎ、その絆を育て強める役割を果たしています。この報告がいくらかでも“宝もの”を明らかにでき、地域再生の糸口となることを願っています。

（編集部）